



中・大規模施設【最優秀賞】

生活協同組合コープみやざき
宮脇店



中・大規模施設【優秀賞】

幼保連携型認定こども園
桜ヶ丘幼稚園



中・大規模施設【優秀賞】

宮崎学園短期大学

平成
30年度

宮崎市

だれもが住みよい
まちづくり賞



中・大規模施設【奨励賞】

南九州マツダ大淀店



中・大規模施設【奨励賞】

まなび保育園



中・大規模施設【奨励賞】

南九州スバル花ヶ島店



宮崎市

最優秀賞

生活協同組合 コープみやざき宮脇店



■所在地：宮崎市宮脇町 ■主要用途：物品販売店舗（スーパー）
 ■設計者：株式会社 桜木組

講評

道路から出入口付近まで点字誘導ブロックが敷設されており、出入口付近のインターホンを通して、店内スタッフによる対応が可能である。車いす使用者用駐車場も1階と2階に屋根付きで3台分設置、そのほかにも優先駐車場が6台分設置されている。店舗内は、陳列棚が低く設置されており商品が取りやすい上、視認性も良い。多種の買い物かごが常備されており、高齢者や障がい者に対する配慮もなされている。職員の手話講習の受講制度や、筆談ボードが常備されており、ソフト面での対応も充実している。また、多目的トイレについても、オストメイト対応トイレ、便座の背もたれ、フィッティングボードなどが設置されている。ハード面・ソフト面の両方でバリアフリーへの配慮が高く評価された。

優秀賞

幼保連携型認定こども園 桜ヶ丘幼稚園



■所在地：宮崎市桜ヶ丘町 ■主要用途：社会福祉施設（認定こども園）
 ■設計者：ながすみ建築設計

講評

高低差のある地形であるが、低い部分を地階のピロティ駐車場とすることで、地階からエレベーターで地上階へアプローチでき、地形を生かした設計がなされている。屋上には、日除けテントや人工芝が敷かれ、子供の遊ぶスペースとして有効に利用されている。多目的トイレについても、オストメイト対応トイレの任意設置の他、ベビーベッドやベビーチェアが設置されている。階段の手すりも2段で設置され、子供に対する環境は勿論、バリアフリーへの配慮が評価された。

優秀賞

宮崎学園短期大学



■所在地：宮崎市清武町加納 ■主要用途：学校等施設（短期大学）
 ■設計者：株式会社 岩切設計

講評

屋根付きの車いす使用者用駐車場から渡り廊下を通して、雨に濡れることなくアプローチができる。多目的トイレは1階から4階まで各フロアに設置され、1階にはオストメイト対応トイレの任意設置の他、ベビーチェアやフィッティングボードが設置されている。学校でありながら、障がい者等への配慮が十分になされている点が評価された。

奨励賞

南九州マツダ大淀店



■所在地：宮崎市大字恒久 ■主要用途：物品販売店舗（ショールーム）
■設計者：株式会社エムエスピー 店舗開発機構

講評

道路から出入口付近まで点字誘導ブロックが敷設されており、自動ドアから先は受付で対応可となっている。車いす使用者用駐車場は庇があり、雨天時でも濡れずに入店できる。多目的トイレはベビーベッドやベビーチェアが設置されており、任意の授乳室も設けられるなど、誰もが利用しやすい施設となっている。

奨励賞

まなび保育園



■所在地：宮崎市大字恒久 ■主要用途：社会福祉施設（保育園）
■設計者：かわごえ設計工房

講評

災害時には、園庭から屋外の階段で、建物の屋上に避難できる施設となっている。また、屋上は雨天時に園児が遊べるスペースにもなる。玄関の段差はスロープの設置で解消され、2階へもエレベーターで上がることが可能である。多目的トイレについても十分な広さがあり、階段の手すりも2段設置で、誰もが利用しやすい施設となっている。

奨励賞

南九州スバル花ヶ島店



■所在地：宮崎市花ヶ島町 ■主要用途：物品販売店舗（ショールーム）
■設計者：株式会社サンワイテック 一級建築士事務所

講評

車いす使用者用駐車場は庇があり、雨天時でも濡れずに入店できる。多目的トイレには、大人用の多目的シート、便座の背もたれなどが設置されている。また、一般の女子トイレ内に任意の授乳スペースが設けられているなど、誰もが利用しやすい施設となっている。

宮崎市バリアフリー検討会委員 審査を振り返って

米村 敦子 議長

(宮崎大学教育学部 教授)

私たち「宮崎市バリアフリー検討会」が審査を行います「宮崎市だれもが住みよいまちづくり賞」顕彰は、民間建築物のバリアフリー促進を目指す事業で、第9回となります。今回は平成28～29年度対象建物から、書類審査・現地審査を経て、最優秀賞1、優秀賞2、奨励賞3を選出しました。最優秀賞の建物は、利用者の立場に立ったきめ細かいバリアフリーと、緊急時対応への準備がよく整っています。優秀賞・奨励賞は努力を評価しました。いずれも中大規模建物で、残念ながら私たちが身近に利用する小規模建物の各賞該当はありませんでした。小規模であっても、バリアフリーへの気配りと緊急時対応を整えた、他の参考となるバリアフリー建築物の出現を期待します。



廣志 秀月 委員

(公益社団法人日本オストミー協会宮崎県支部 相談役)

平成29、30年度「まちづくり賞」審査にあたり、ハード面で中大規模と小規模との比較は単純には出来ないと思いますが、最優秀賞・優秀賞に選ばれた施設は、ハード面のバリアフリー化にも取り組んでおられ、少しの改善の余地はありますが、それ以上にソフト面で工夫や思いやりの心が目に見えてきたように強く感じました。特に最優秀賞に選ばれたコープみやざき宮脇店は思いやりの備品や空間が心を和ませるに十分な備えがありました。今回は、残念ながら小規模施設は賞の対象物件はありませんでしたが、ハード面で色々な制約があると思いますが、ソフト面での工夫次第でハードの壁を越えられるのではないのでしょうか。思いやりの心にもう一つハートをプラスしたら如何でしょうか。



内藤 廣之 委員

(NPO法人 宮崎市視覚障害者福祉会 理事)

先日、コープみやざき宮脇店さんへ視察に伺いましたが、そこでお客様へのきめ細やかな心配りがなされていることが分かりました。例えば、拡大鏡を取り付けたカートがあり、これは、弱者や高齢者が商品を選ぶのにとても便利なものと思います。さらに、事前の予約が要るようですが、一人で来店した視覚障がい者には当店の職員がついて、一緒に買い物をお手伝いいただけるようなことも伺いました。これからも地域の方々をはじめ、障がい者、高齢者の方々のために、ご配慮を宜しくお願いいたします。



田中 聡子 委員

(宮崎市肢体不自由児(者)父母の会 会長)

今年度初めて、バリアフリー検討会委員として顕彰建築物を審査させていただきました。最近の大型スーパーや公共機関等の建築物は利用者にとって快適な空間作りを目指していると感じます。一方で障がい者用トイレがただ広いスペースに大きな便器が1つ、ベビー用ベッドのみ設置など利用できる対象が限られる残念なスペースや使い勝手の悪い配置も数多く見受けられます。利用者の目線になるとアイデア1つで快適なバリアフリーを実現することが出来ます。最優秀賞のコープみやざき宮脇店の取り組みは利用者目線で細かい配慮が多々あり今後の建築物の参考にさせていただきたいです。またバリアフリー評価の基準や審査の方法など今後検討していくべきだと感じました。



吉岐 英児 委員

(公益財団法人 宮崎身体障害者福祉協会 常務理事)

この会を通してバリアフリーという視点で建物の作りや設備等を観る機会を得ると共に、委員さんそれぞれの立場の率直な意見を聴くことで、さらに解決すべき課題が含まれていることにも気づかされました。誰もが、いつでも、どこでも、わかりやすく利用しやすい施設設備をめざすことが基本ですが、広さ・費用等の面でゆとりのある施設設備にできないのも現状のようです。しかし、このような取組が、誰もが生活しやすい施設づくりやバリアフリーに対する理解と配慮のあり方を広げ、よりよいまちづくりを推進させる力となります。受賞された施設の関係者の皆様、おめでとうございました。さらなる充実をご期待申し上げます。



森山 淑好 委員

(NPO法人 ドロップインセンター 理事長)

平成29年度よりバリアフリー検討会委員に委嘱され、2年目になります。今回初めて「だれもが住みよいまちづくり賞」の選考に携わせて頂きました。様々な立場の方々との面を見たり視察に行ったりし、様々な視点で検討を重ね大変勉強になった検討会でした。多くの施設や企業がバリアフリー化に努力されておりますが、今後も素晴らしい建築物が増え、更に「住みよい」宮崎市になっていくことを望んでおります。



松浦 邦晴 委員

(宮崎市聴覚障害者協会 会長)

毎年行われています、不特定多数の方が使用されるハード面の建物の視察は、バリアフリーという言葉が浸透してきたおかげで毎年検討されていることが伺われます。ただ、完成後に指摘点は多少なりともございますが、当事者の目線を配慮していただきたいですね。私共の会員には耳が聞こえない・発言できない。一人の空間のときは尚不安です。視覚的な情報を取り入れていただきたいですが・・・できるとこと、できないとことがありますので中々です。「障がいのある人もない人も共に暮らしやすい宮崎県づくり条例」に沿い、合理的配慮に沿う心のバリアフリー実践に取り組んでいただきたいです。



日高 達郎 委員

(一般社団法人 宮崎県建築士会 研修部長)

9年目の委員をさせて頂いております。審査に際してバリアフリーに配慮された建物の図面と現場を見せて頂きました。審査の結果、最優秀賞1、優秀賞2、奨励賞3が選ばれました。選ばれた建物はハード面のバリアフリーにはもちろん、ソフト面にも配慮され、地域住民にも開かれた建物でした。その反面、もう少し配慮があればもっと良いとの意見もありました。建築に携わる設計者施工者がバリアフリーに関してもっと高い意識を持って業務に当る必要があると改めて感じました。



石川 定雅 委員

(宮崎市老人クラブ連合会 副会長)

検討会委員になって3年目。検討会に参加するたびに、それぞれの施設が、利用者の利便性や安全面などを配慮して提供されていて、高齢者の一人として心から敬意と感謝を申し上げます。施工に当たっては、立地条件や経費等の問題で、いろいろ制約もあると思いますが、どの施設も細かいところに気配りが見られ、うれしい限りです。中には、もう少し工夫、改善することで、安全性や利便性、満足度などがさらに高まるのではないかと思います。検討物件を見て回りました。バリアフリーの心が広く人々の生活の中に浸透し、誰もが安心、安全、快適に利用できる施設や、環境になることを期待しながら、高齢者の立場で役割を果たしていきたいと思っております。



大野 富美子 委員

(NPO法人 宮崎市手をつなぐ育成会 理事)

検討会に参加するようになり、「だれもが住みよいまちづくり」をさまざまな立場から建築物を顕彰してきました。バリアフリーに配慮された多目的トイレなど、実際に利用する人の目線でみて車椅子の方が使用してみると、回転スペースが狭かったり洗面台が高かったり不具合が生じてしまいます。最近では、緊急呼び出し紐が低く置かれているトイレが多くなり、ソフト面においても人に優しい配慮がなされていました。また、災害時において高齢者の方々、障がい児・者、すべての方々が必要避難場所でも混乱することなく利用できる居場所など、まだ環境整備もバリアフリー化の充実が必要と感じています。



石川 博隆 委員

(一般社団法人 宮崎県理学療法士会 宮崎市郡ブロック部長)

今年度より宮崎市バリアフリー検討会に参加させて頂きました。検討会では様々な方の利用が想定される施設を、委員それぞれの視点で活発な意見交換が行われておりました。私も実務の中で高齢の方の生活の場である居宅の評価は行っておりましたが、生活の場を広く捉えたと居宅のみではなく買い物、金融機関、医療機関など様々な近隣の施設への移動や建物への出入り、建物内での利用しやすさが重要になることを改めて考えることができました。いかに障がいを持った方や高齢の方が安全に利用しやすく造られているか、その中でハード面の不足をソフト面でどう補うかといった障がいを持った方に対する社会全体のバリアフリー化の考えも必要と感じました。



森 愛実 さん(永山 昌彦 委員代理)

(NPO法人 障害者自立応援センター-YAHIDO みやざき 理事)

誰もが住みよいまちづくりに向けて、高齢者、障がい者がどうしたら利用しやすいか、各施設で様々な工夫がされていて、最優秀賞の「生活協同組合コープみやざき宮脇店」ではハード面のバリアフリーが充実していたのと、ソフト面に対しても配慮を感じ、嬉しく思いました。また、自然災害時における対策もされていて、いろんな角度から意識の高さを感じました。年々顕彰対象物件が減ってきていると言われていて、今回、小規模部門の賞がなかったため、誰もが安心して、利用できる建物が増えるように、バリアフリーに関して、意識、関心をもっと高まることを願います。



宮崎市だれもが住みよいまちづくり賞

■主催：宮崎市
■事務局：宮崎市都市整備部建築指導課

〒880-8505 宮崎市橘通西1丁目1番1号
TEL：0985-21-1813 FAX：0985-21-1815
E-mail：30sidou@city.miyazaki.miyazaki.jp